

平成 30 年度 広島県立沼隈特別支援学校 研究内容について

広島県立沼隈特別支援学校
教務教研部

1 研究テーマ

「チャレンジと振り返りを通して、『次への意欲』を育む授業づくり
～児童生徒の『やってみよう!』『よし、やるぞ!』という姿を目指して～

2 研究テーマ設定の経緯

平成 30 年度の研究テーマを設定するにあたり、次の二点について実施した。

・アンケートの実施（平成 30 年 1 月）

本校教員の考える「育てたい子供像」と「育てたい資質・能力」についてアンケートを実施したところ、「①自立②主体的③チャレンジ④表現⑤協働・社会性」という五つの資質・能力について書かれたものが多かった。⇒その中でも特に目立ったのが、「主体的である」姿と、「チャレンジしようとする」姿を目指しているという意見だった。このアンケートから、本校で育てたい児童生徒像を、「『やってみよう!』『よし、やるぞ!』」と想って、苦手なことでもチャレンジできる児童生徒」（＝本校の目指す、主体的な児童生徒の姿）と設定した。

・過去の研究テーマの整理

また、平成 23 年度から平成 29 年度までの研究テーマを整理し、これまでの成果と残された課題について検討した（次の表）。

●平成 23 年度

「キャリア教育の視点を持った授業づくり」

課題：自己肯定感と主体的行動を引き出すこと



●平成 24～26 年度

「児童生徒が自信を持って活動に参加できる授業づくり～やればできる体験を積み重ねることを通して～」

課題：①「できる」の量的拡大・質的深化の要因、②失敗して自信が揺らいでも立ち直る力、③できる状況から次のステップ（新たな学び）をはじめていくこと

☆平成 24～26 年度に残された課題

- ①「できる」の量的拡大・質的深化の要因
- ②失敗して自信が揺らいでも立ち直る力
- ③できる状況から次のステップ（新たな学び）をはじめていく



①について、「できる」を「分かる、動ける、できる」状態として整理し、その量的拡大と質的深化の要因について明らかにすることを研究テーマとした。

●平成 27～29 年度

「児童生徒一人一人が『分かる、動ける、できる』授業づくり」

・・・授業の分析を通して、六つの要因（視覚支援の工夫、活動内容や環境設定の工夫、個別課題の工夫、時間に関する工夫、意欲を引き出す工夫、振り返りの工夫）が明らかになった。



②と③についての研究が必要。

この②と③について、授業場面で児童生徒の活動の成果に対する「適切な振り返り」を行っていくことで、これらの力を育むことができるのではないかと考えた。また、アンケートの結果から設定した、育てたい児童生徒像『やってみよう!』『よし、やるぞ!』とあって、苦手なことでもチャレンジできる児童生徒」を踏まえて、次の2点を研究仮説とした。

・児童生徒がチャレンジして「成功する」ことを繰り返し経験させ、その「成果が分かる振り返り」を行うことで、次へのチャレンジに向けた意欲を育むことができるのではないか。
・児童生徒がチャレンジして「失敗した」際、「成功に向けた振り返り」を行うことで、再チャレンジする意欲を育むことができるのではないか。

この研究仮説を検証するために、研究テーマを「チャレンジと振り返りを通して、『次への意欲』を育む授業づくり～児童生徒の『やってみよう!』『よし、やるぞ!』という姿を目指して～」とした。「次への意欲」について、「新しいことや、より高い目標、課題意識を持っていることに、自分から挑戦しようとする気持ち」であると定義した。「チャレンジ場面」と「適切な振り返り」を通して、児童生徒の「次への意欲」が高まる授業を行い、その分析を通して「次への意欲を高める」要因（内容・手立て等）を明らかにしていく。また、実践事例を多く収集していくために、3年間同一のテーマで研究を行っていく。

今年度の研究方法は次の四点で、年度末には次年度へ向けて研究方法の見直しを行う。

(1)実践の振り返りと成果の共有を通じた授業改善（全校で取り組むこと）

①授業づくり

チャレンジと振り返りの場面を取り入れた授業を実践し、児童生徒の「次への意欲」を育む実践例を集約・共有する。

②教材・教具

児童生徒の実態に応じた適切な教材・教具についての研究を進める。

③協議方法

協議の方法を見直し、協議した成果を共有しやすくすることで、授業づくりに反映できるようにする。

(2)児童生徒の「次への意欲」が高まる要因についての分析（教務教研部で取り組むこと）

実践例の分析や、アンケートを実施して、「次への意欲」を育むための要因（内容・手立て等）について明らかにしていく。

3 研究構想図（構想図、詳細図、授業モデル）

研究構想図に、児童生徒が様々な授業の中で、「チャレンジ」を行い、その成果（成功や失敗）について「適切な振り返り」（成功した際には成果が分かる振り返り、失敗した際には成功に向けた振り返り）を行うことを繰り返して、スパイラル状に「次への意欲」が育まれて行く様子を表した。最終的なチャレンジの成功に向けて、教師側も課題や手立ての見直しを行うことが必要だと考え、明記した。

詳細図には、児童生徒がチャレンジに成功した場合と、失敗した場合について、パターン別に表した。チャレンジする中で、児童生徒は「思考・判断・表現」し、その結果失敗した場合は、「どうしたら成功するのか。」について「思考・判断・表現」と考え、それぞれ図に表わした。

また、このような「チャレンジ」と「振り返り」のある授業について、どのように展開されていくのかをフローチャートで表し、授業モデルとした。授業モデルには、「次への意欲」の高まりが1サイクルで完結せず、次のチャレンジに繋がっていく様子を表した。

4 研究内容

(1)校内研修

- ・全体研修会（研究内容について、中知研報告、1年間のまとめ）全3回
- ・課題発見・解決学習研修
- ・授業実践力向上研修（ICT研修）複数回

(2)校内授業研究会 小学部：平成30年7月18日（水） 中学部・高等部：平成30年7月12日（木） 指導・助言者

小学部：広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部 指導主事

中学部：広島県教育委員会 特別支援教育課 指導主事
高等部：香川大学教育学部 特別支援教育領域 坂井 聡 教授

(3) 公開授業研究会 平成31年1月18日(金)

指導・助言者

小学部：広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部 指導主事
中学部：広島県教育委員会 特別支援教育課 指導主事
高等部：香川大学教育学部 特別支援教育領域 坂井 聡 教授

(4) 教材・教具の研究・開発

日々の授業を行う中で、研究テーマに基づく教材・教具の開発を各教職員が行う。また、公開授業研究会における展示等で他の教職員が作成した教材・教具について情報共有し、教材教具の開発に対する教職員の専門性や意識を高める。

(5) 研究協議内容の共有

研究協議の内容について、成果等を教務教研部でまとめ、共有データのフォルダ上に保存し、閲覧できるようにする。また、共通ポータルへのアップを通して、共有を促進する。

(6) 一人一細案授業の実施、評価、授業改善

12月までに教職員が学習指導案を作成し、授業研究を行うことで、「チャレンジと振り返りを通して、『次への意欲』を育む授業づくりについて効果的な学習活動の在り方や、授業における指導・支援の工夫について研究する。また、授業後に参観者と授業者として協議会を行い、授業反省を行う。授業反省の内容について、授業者がまとめを行い、共有データ上に保存することで、成功例・実践例の集約・共有の促進を行う。

以上